

第 37 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム学際研究学生賞～

< 順不同 >

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

楊 鯤昊 氏（早稲田大学 現代政治経済研究所 次席研究員）

テレコム学際研究学生賞 最優秀賞

「Cooperation patterns of members in networks during co-creation」



この度は、「第 37 回電気通信普及財団賞テレコム学際研究学生賞 最優秀賞」という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。電気通信普及財団の皆様、ご審査頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。また、本論文の執筆および博士課程におきまして、多大なるご指導を頂いた植田一博先生、藤崎樹さんに心より感謝申し上げます。

インターネットの普及により、オンライン上での協力による創作活動（以下、共創活動）が盛んになっています。受賞論文では、オンライン上での共創活動において、異なる参加者がどのような役割を果たしているのかを分析しました。その結果、共創関係のネットワークにおける周辺メンバーが主にオリジナルな内容を創造する役割を担い、創作物の“量”を増やすことに貢献していることを明らかにしました。これに対して、中心メンバーは主に他者によって創造された内容を修正する役割を担い、創作物の“質”を高めることに貢献していることを明らかにしました。創作物の“量”と“質”の双方において高い成果を得るには、周辺メンバーと中心メンバーとの間の共創活動が重要な鍵を握ることを示した本研究の知見は、実社会での組織づくりにも貢献するものと考えられます。

今後も、社会経済の発展に寄与することを目指して、学際的な研究を進めていく所存です。末筆ではございますが、貴財団のますますのご発展をお祈り申し上げます。

飯沼 楓 氏（電気通信大学 情報理工学研究科 機械知能システム学専攻

博士前期課程 2 年）

テレコム学際研究学生賞 奨励賞

「Emotion-involved human decision-making model」

この度は、「第 37 回電気通信普及財団賞テレコム学際研究学生賞 奨励賞」という名誉ある賞を賜り、誠に光栄に思います。電気通信普及財団の皆様および審査員の皆様に厚く御礼申し上げます。また、本研究におきまして、多大なるご指導を頂いた電気通信大学小木曾公尚准教授に御礼申し上げます。

受賞論文では、感情ダイナミクスにより誘因される非合理性を内包する意思決定モデルを提案しています。計算機と人が相互に接続するシステムである Cyber-Physical Human System において、人の役割は、機器の管理対応やロボットとの協働作業など多岐にわたるため、人の影響を無視できません。そのため、人と工学システムの協調の実現には、人の行動予測が必要になると考えられます。本研究では、心理学に基づき感情（情動）の変化を定式化することで、日々の合理的な振る舞いの中で生じる突発的で非合理的な意思決定を表現しています。また、殺人事件の裁判記録に基づいた数値例では、加害者の振る舞いを定量化し、提案モデルが人の行動を再現できることを確認しました。このようなモデルが発展すれば、人の行動予測や人と機械の協調システムの実現にも役立つものと考えられます。

今回の受賞を励みにして、今後も精進していく所存であります。末筆ながら、電気通信普及財団の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

森 友亮 氏（東京大学 先端科学技術研究センター 協力研究員）

テレコム学際研究学生賞 奨励賞

「Finding and Generating a Missing Part for Story Completion」



この度は、「第 37 回電気通信普及財団賞テレコム学際研究学生賞 奨励賞」という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。電気通信普及財団の皆様、審査くださった先生方に、厚く御礼申し上げます。また、本論文の執筆にあたってご指導をいただきました、指導教員の原田達也先生、椋田悠介先生と山根宏彰さんに、心より感謝申し上げます。

受賞論文は、ストーリー理解やストーリー生成、そして創作支援のための新規タスク「Missing Position Prediction」を提案したものです。深層学習の応用により、ストーリー理解や生成の分野において急速な進展が見られますが、技術的な観点と、実際にストーリーの創作を行う人々の視点から、統合的に取り組んだ研究は少ないと言えます。「既存のタスクを解けるようになって、小説家のニーズを十分に満たせないのではないか」という問題意識から本研究は出発しており、プロの小説家が用いる創作技法などを参考に、「執筆者自身が気付いていない、ストーリーの『欠落』を指摘する」という新たなタスクを提案し、このタスクをいかに解くかを検討しました。

今回から新設された学際研究学生賞、その奨励賞の受賞を励みとして、人文・社会科学分野とシステム技術分野とを橋渡しするような、学際的研究の発展に貢献すべく、一層励んで参ります。

末筆ながら、電気通信普及財団の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

前田 春香 氏（東京大学大学院学際情報学府 博士後期課程 2 年／ 理研革新知能統合研究センター(AIP)／日本学術振興会 DC2)

テレコム学際研究学生賞 奨励賞

「アルゴリズムの判断はいつ差別になるのか—COMPAS 事例を参照して」

この度は、拙稿「アルゴリズムの判断はいつ差別になるのか——COMPAS 事例を参照して」に賞を賜りまして、たいへん光栄に存じます。審査いただいた先生方をはじめ、財団の皆様、執筆にあたりご指導いただいた佐倉統先生、先輩方にも厚く感謝申し上げます。

本論文は近年のアルゴリズムによる差別に焦点を当て、技術的検討が主流である同分野で、ある事例を新たに哲学的視点から検討したものです。確かに技術的研究は進められていますし、それに対応できることも数多くあるでしょう。

しかし私たちは未だ差別の何たるかを知らないままです。プログラムが私たちの考えることを真似るなら、過ちも同じように真似るはずで、ですから少なくとも、私たちは何が正しくないのかを知っておく必要があります。私はこの論文を、その一助にすべく書いたつもりです。今後も全力を尽くす所存です。

末筆ながら、貴財団の一層のご発展を心よりお祈りいたします。